

著明なる低血圧を示せる所謂二硫化炭素 中毒症の1例

岡山医科大学病理学教室 (主任 田部教授)

桑原亮造

[昭和28年9月10日受稿]

1. 緒言

余⁵⁾は曩に所謂二硫化炭素中毒と血圧との
関聯性あるべきに着目し、某人絹工場従業員
の血圧に就て研究し、其従業員血圧は全般的
に稍々低きこと、入社後一時血圧低下の時期
あり、次いで徐々に上昇の傾向を示すこと、
特に紡糸室及び繰繰室従業員に於ては入社後
一時著明なる血圧低下を來たし、次いで漸次
増加の傾向を示すことを明かにし、之等の部
署は人絹工場に於ける、CS₂、H₂S 及び SO₂
等の有害瓦斯の含有量最も多き部署なるに鑑
み、此の血圧の変化は瓦斯中毒に関聯するも
のと考へらるることを述べたり。

前記の工場にて有害瓦斯の濃厚なる部署に
於て、長期に亘り長時間の労働に従事せる一
職工が、臨牀上著明なる低血圧症を伴へる中
毒症状を訴へたる1例に遭遇せるを以て之を
報告せんとす。

2. 症列

患者 青○紀○郎 30才 紡糸工

初診 昭和15年6月21日

現病歴 昭和13年11月8日入社、家庭の事
情に依り金銭を得るため、約6ヶ月前より早
出、残業を希望し毎月約45人分の労働をなし
たりと云ふ。然るに約10日前より食欲減退、
羸瘦、倦怠を覚え、終に堪へ難くなれりとて
診療を求む。

既往歴 家族歴に認むべきものなし。

現症 体格強壯、栄養普通、体重 55kg
別に認むべき症状なし、血圧を測定するに
84~74mm Hg にして著明なる低血圧を示す。

治療 有害瓦斯鬱閉気より遠ざかるため
休業を命じ、葡萄糖溶液の静脈内注射及び
「ビタミンB剤」の内服を行ふ。

経過 前記の治療により24日には血圧98
~74mm Hg、7月1日には平常 1110mm Hg
となると共に症状全く去れり。

3. 總括並に考按

余の症例を茲に要約すれば30才の紡糸工が
約6ヶ月間の長期に亘り、有害瓦斯の濃度最
も高き紡糸室に於て長時間の労働をなし、食
思不振、倦怠、羸瘦を訴へ、最高血圧 84mm
Hg といふ著明なる低血圧を示せる所謂二硫
化炭素中毒症にして、治療により血圧値の回
復すると共に諸症状全く去り健康を恢復せる
1例なり。

人造纖維工業に於ける工業中毒は徳原氏¹⁾
により二硫化炭素中毒なりと云はれたるも、
人絹工場殊に紡糸室にては CS₂ の外に H₂S
SO₂ 等の有害瓦斯の存する事は既知の事実に
して、奥²⁾氏により人絹工場に多発する一種
の神経衰弱様疾患、神経痛、胃腸痙攣等が
H₂S 中毒と見做すべきものなりと云はれてよ
り、次で近藤³⁾氏により人絹工場に於ける工
業中毒の本態に就いて硫化水素一元説の称へ
らるるあり、其後三浦一富岡⁴⁾、三浦⁷⁾、永
田⁸⁾氏等は所謂二硫化炭素中毒なる語を用ひ、
倉田⁴⁾氏は二硫化炭素中毒と云ふも CS₂、H₂S
鬱閉気中に於て発生せるものを云ふ。即ち
CS₂ 並に H₂S の中毒なること一般の認むる
所なり。依つて余は CS₂ 及び H₂S に因する
中毒なることを現はす為、所謂二硫化炭素中
毒なる語を用ひたり。

抑所謂二硫化炭素中毒の際中毒症状として食慾減退、倦怠、羸瘦等を来たすことは諸家の等しく認むるところにして、奥⁹⁾氏は69%に食慾減退を認め、倦怠脱力感は46%に之を認め居れり、又皿井¹⁰⁾氏は96%に羸瘦を認め居れり。余の症例は匆忙の際のこととて詳細なる記録を残し居らざるは遺憾ながら、以上の如き所謂二硫化炭素中毒に頻発する症状を有し、且つ有害瓦斯の雰囲氣中に長時間而も長期に亘りて労働に従事せること、其他には何等認むべき原因なきこと、治療により迅速に恢復せる点等より所謂二硫化炭素中毒に因するものと認めざるを得ざるものなりとす。

二硫化炭素中毒の血圧に及ぼす影響に就いて、之を文献に徴するに、奥⁹⁾氏は二硫化炭素中毒136例の症状記載中6例(4.41%)に就いて血圧の記載をなし、其の亢進を認め、勝沼教授²⁾並に皿井¹⁰⁾氏は二硫化炭素中毒50例中40%に130 mm Hg以上の血圧亢進を認めたりと云ひ、所謂二硫化炭素中毒の際には血圧亢進を来たすものの如く考へらるるも、之に反し Heffter¹⁾は硫化水素中毒の際に心臓機能不全により血圧の低下を来たすと述べ

たり。即ち血圧に関しては是等報告の云ふ所区々として未だ一致した結果に到達し居らず。然るに余⁵⁾が人絹工場従業員の血圧に就ての研究に依れば其の従業員血圧特に有害瓦斯の濃度高き部署の従業員の血圧は著明なる低下を示すものなることを知れり。而して茲に所謂二硫化炭素中毒と断ぜざるを得ざる症例に於て亦著明なる血圧低下を来たしたることは注目すべき症状なりと云はざるべからず。余は前記の人絹工場従業員の血圧に就ての研究並に本症例よりして、所謂二硫化炭素中毒の際に血圧低下を認むることは、其の診断上重要な症候なることを強調せんと欲するものなり。

4. 概 括

某人絹工場にて有害瓦斯の含有量最も多き紡糸室に於て、長期に亘り長時間の勤労に従事し、著明なる低血圧を示せる30才男子の所謂二硫化炭素中毒症の1例に就いて述べ、血圧低下は所謂二硫化炭素中毒の際の注目すべき症状なることを指摘せり。

摺筆するに当り思師田部教授の御校閲を深謝す。

文 献

- 1) Heffter : Pharmakologie III, S. 438, 1927.
- 2) 勝沼 : 精神神経学誌. 40巻, 10号, 733頁, 昭和11年.
- 3) 近藤 : 国民衛生. 15巻, 1号, 61頁, 昭和13年.
- 4) 倉田 : 日血会誌. 4巻, 1号, 1頁, 昭和15年.
- 5) 桑原 : 未発表.
- 6) 三浦, 富岡 : 精神神経学誌. 42巻, 9号, 695頁, 昭和13年.
- 7) 三浦 : 診断と経験. 2巻, 12册, 1355頁, 昭

- 和13年.
- 8) 永田 : 京都医学雑誌. 36巻, 6号, 441頁, 昭和14年.
- 9) 奥 : 国民衛生. 12巻, 6号, 891, 931頁, 昭和10年.
- 10) 皿井 : 臨牀病理学血液学誌. 5巻 9号, 795頁, 昭和11年.
- 11) 徳原 : 国民衛生. 9巻, 7号, 1233頁, 昭和7年.